

令和2年12月24日(木)

【第20回北陸地域連携プラットフォーム】

## 北陸地域における都市圏プロ人材の活用の現状について

北陸財務局 総務管理官 笹本 純雄

北陸財務局の笹本でございます。私からは「北陸地域における都市圏プロ人材の活用の現状について」と題しましてお話をさせていただきます。

まず1ページ目でございます。

北陸地域の、まず北陸企業の売上高、経常利益について現状を御説明させていただきます。

令和元年度は、米中摩擦に加えまして新型コロナウイルス感染症の影響もございまして、前年同期比でマイナスという現状でございます。さらに令和2年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響が本格化した影響でマイナス幅が拡大するというふうに見込まれているところでございます。

次に、北陸3県の保証債務残高について御説明させていただきます。

保証債務は、信用保証協会の保証する債務残高でございますけれども、これを見ますと、やはりウイルス感染症の影響を受けまして、資金繰りへの対応のため借入れを行う企業が増加しているということで、保証債務残高も大幅に増加しているという現状でございます。これらの債務はいずれ返済義務を伴っておりまして、中長期的には自らの業績改善により返済財源を捻出する必要があるといった現状でございます。北陸の企業にとっては、売上げ、経常利益が減少していると、あるいは債務残高が増加しているということで、業績改善によって返済財源あるいは利益を捻出する必要性が今後出てきているということでございます。

次に2ページ目を御覧いただきます。

私どもは、新型コロナウイルス感染症の拡大によって浮き彫りとなった企業の課題とデジタル化等を念頭に置いた対応策を把握するために、令和2年9月から10月にかけて、管内の企業にヒアリングを実施いたしました。そのヒアリングの結果でございま

すけれども、感染症により浮き彫りとなった課題といたしまして、企業からは既存事業の需要減への対応とともに、デジタル化、オンライン化への対応を挙げる声が多いということをごさしまして、デジタル化への機運の高まりが伺えるということをごさいます。

次に3ページ目を御覧ください。

課題に向けた事業再構築を行う上でのボトルネックについてお聞きしました。そのボトルネックとしまして、AIやIoTに精通した社員がいないのと、専門人材の不足を挙げる声が多かったところをごさいます。これらの解決方法といたしまして、多様なスキル、ノウハウを有するプロ人材の活用が重要であると、特にこのような人材が多く所在する都市圏の人材活用が有効と考えられるところをごさいます。

さらに、こういった北陸地域における都市圏プロ人材の活用状況につきまして、現状を把握するために、企業とプロ人材のマッチングに取り組む仲介者、つなぎ手、あるいはプロ人材を受け入れている企業にヒアリングを実施したところをごさいます。

4ページ目を御覧ください。

ヒアリングについて、具体的にどんなところにヒアリングしたかと申しますと、まず企業とプロ人材のマッチングに取り組んでいる金融機関及び各県のプロフェッショナル人材事業戦略拠点に加えまして、先進的な取組を行っている金沢大学及び富山県南砺市や、実際にプロ人材を受け入れている企業にヒアリングを実施いたしました。

その結果、判明したプロ人材のニーズといたしましては、営業部門のトップなど将来的な経営者層及び経営者の片腕となり得る部長クラス、IT専門人材などの専門職、エキスパートなどの今までのニーズに加えまして、新型コロナウイルス感染症の影響により、マーケティングに基づく商品開発、営業力強化、販路拡大などに関する人材のニーズが増加していると。さらに、IT専門人材を活用して自社の高度化を図ろうとする動きも見られるところをごさいました。

5ページ目を御覧ください。

先ほどもちょっと御説明がありましたけれども、プロ人材の活用方法は常用雇用と副業・兼業に大別されることから、ヒアリングの結果につきましても当該分類に基づいて整理させていただきました。

まず常用雇用の成約の障害について御紹介させていただきますと、まずつなぎ手とし

ましては、企業の正確なニーズを把握できておらず、マッチングに至らないといった求人ニーズの掘り下げ不足があると。企業側は人材採用に伴うコストに加えて、外部人材の受入れによる社内の不協和音や、外部人材を地方の中小企業にいかにしてなじませるかといったことも含めた外部人材の受入れに係るマネジメント、こういったところに問題があると。またプロ人材側も、高いスキルを持っていても給与が低く抑えられてしまうといった問題に加えて、地方への転居もネックになっているということでございました。

一方で成約した場合について紹介させていただきますと、つなぎ手としては、金融機関が顧客企業のプロ人材ニーズを把握した際に、自身の契約人材紹介会社だけで人材を探すのではなくて、より多くの人材紹介会社と契約しているプロ拠点と情報を共有して並行して人材を探すということで、企業にとって人材の選択肢が広がったと。それと金融機関が把握した情報の有効活用が重要だと、こんなことをおっしゃってございました。

こういったことから、今後の課題ですとか対応策について御紹介させていただきますと、つなぎ手といたしましては、より小規模な事業者へのアプローチに当たって、プロ拠点と金融機関とのさらなる連携が重要であるという御指摘がございました。さらに、企業側の課題、対応策としては、外部人材を受け入れて企業課題を解決するといったマインドを醸成するといったことに加えまして、外部人材を受け入れた際に不協和音が起きないように、自社の従業員に対して受入趣旨等を含めた事前の丁寧な説明、周知を行うなど、プロ人材の働きやすい受入態勢の整備が必要だと、こういう考え方が必要だというふうな指摘もございました。

6 ページ目を御覧ください。

次に、副業・兼業におきましても、成約した場合の障害になったことですとか、あるいは成約の要因、成功事例について御紹介させていただきますと、まず企業側において、常用雇用による外部人材の活用以上に、企業への兼業・副業への浸透度が低いと。副業・兼業で人材を受け入れるという感覚がないという、こういう御指摘がございました。さらに、経理を例にすると、常用雇用の場合、経理全般に関するプロ人材が求められる場合が多いですけれども、副業・兼業の場合はより範囲の狭い、経理業務の中でも一部の特定業務の改善といったプロジェクトの特定、切り出しが求められるんですけれども、な

じみのない企業はその知識、経験が不足しているという御指摘がございました。

一方で成約した要因として、企業側としては月数回行うミーティングをリモートにすることによって、遠隔地の都市圏人材とマッチングしたと。あるいは、先ほども御指摘がありましたけれども、常用雇用の場合に固定費となる人件費が、副業・兼業では短期間の変動費とすることが可能であると。また、プロ人材側も副業・兼業によって、収入面以外の自己実現、スキルアップや地域貢献といったやりがいを重視する人材が多かったと、こういった面もございました。

こういった面から課題、対応策としてどんなものがあるのかと申しますと、つなぎ手としては、常用雇用による外部人材の活用以上に企業への浸透度が低いことから、成功事例を積み上げて地域企業に示していくことで、副業・兼業によるプロ人材活用のメリットを企業に浸透させて、マッチングのノウハウを蓄積していくことが重要であると。また企業側においても、プロ人材に任せることが効率的・効果的なプロジェクトを切り出し、そのプロジェクトに最適な人材を選ぶことで登用するといったことが必要であると。その他は、つなぎ手だけでなく地方公共団体や商工団体も含めた地域の各主体が連携して、副業・兼業によるプロ人材活用の啓発を行うなど、地域によってこういった機運を醸成、高めていくことが必要ではないかと、こういう御指摘もございました。

次に7ページでございます。

まず、北陸地域においてどんな先進的な取組が行われているかということをお紹介させていただきます。

まず常用雇用に向けた取組でございますけれども、この紹介させていただくプログラムは、金沢大学が都市部の人材に対しまして、実践的なリカレント教育、社会人の学び直し、新たな専門知識の習得の場として、地域企業の課題解決の研究の場と客員研究員の立場を提供しているというものでございます。

具体的に申しますと、都市部の人材が6か月間石川県内に移住しまして、県内企業の経営・事業参画を通して課題解決に取り組むことを目的とした地域活性化事業ということです。実施期間が6か月間、県内への移住を伴うことから、都市部人材の地域企業への流動化、定着を目指す側面も有しております。

金沢大学が人材のリカレント教育、金融機関が受入企業の開拓、あと国内に約千社の

異業種会員を有する全国企業振興センターが人材の開拓を担当すると、こういう役割分担になっております。

その成果でございますけれども、令和元年度は観光産業をテーマに実施いたしまして、企業側7社に対して人材9名のマッチングが成立したと。8名が6か月間のプログラムを満了しまして、そのうち7名が石川県内に定着したということでございまして、都市部人材の地域企業への流動化に貢献したということでございます。

令和2年度の受入企業からは、「銀行が関与して事前に企業課題を聴取、整理したことにより適切な人材とのマッチングにつながった」という声ですとか、採用人材からは、「金沢大学によるリカレント教育の魅力に加え、銀行が関与していることに安心感があつた」といった、つなぎ手が果たす役割の重要性に関する声が聞かれたということでございます。

次に8ページ目を御覧ください。

次に、北陸地域における副業・兼業の活用に向けた取組について説明させていただきます。

富山県南砺市におきましては、人口減少や都市圏への人口集中などの影響によって、地元企業での優秀な人材の確保が大きな課題になっているところでございます。一方で、先ほども御紹介がありましたとおり、都市部のベンチャー企業や大手企業においては、働き方改革の一環として副業・兼業の普及促進などを進めているところでございますので、こういった機会を捉えまして、平成30年9月、同市の商工会や現株式会社みらいワークスと副業人材の活用に係る包括連携協定を結んだということでございます。

本プロジェクトは、みらいワークスが運営する副業プラットフォーム「Skill Shift」を通しまして、都市部の「やりがい」を重視する優秀な人材と地域の中小企業とをマッチングし、地域企業活性化、継続的な関係人口創出、Uターン増加などの促進を目的としているということでございます。

その成果でございますけれども、南砺市の役割は求人掲載費用の負担、企業とSkill Shiftの仲介、同市商工会等と連携した副業人材に関するセミナーを実施したと。また、市も関与することによって企業の安心感につながっているということでございます。南砺市が求人掲載費用を負担するため、企業側は月額3万から5万円の業務

委託料の負担だけで済むということをございまして、常用雇用に比べて気軽に都市圏の優秀な人材の活用が可能になると。

ある受入企業においては、新規事業立上げのために営業企画人材を求めていたところ、12人の応募があったと。2018年末に大阪在住の方と契約されたそうをございしますが、具体的にはリモートでのやり取りを重ねまして、金沢の外国人観光客を誘致するツアー企画等を立案・実施したと。現在はコロナの影響から外国人観光客が見込めないので、地域の近距離観光企画を進めているということをございました。

次に9ページ目を御覧ください。

ここからはまとめをございますけれども、先ほども御紹介がありました国の施策の効果もございまして、プロ人材に関する相談、求人数は年々増えているということをございまして、当地域においてもプロ人材の活用が広がりつつあるという現状をございます。

ただし、プロ人材活用に向けたポイントにもう一度戻らせていただきますと、企業側においては、やはり外部のプロ人材を受け入れて企業課題を解決するという考えに至らない企業もまだあると。あるいは、外部人材の受入れに係るコストがネックになっている。あるいは、自社従業員への周知、社内規定の整理など、プロ人材を受け入れるための態勢整備が必要であると。さらに、人材側もやはり給与面や地方への移住がネックとなっていると。ただし、給与面以外での住環境やスキルアップ、地域貢献等を重視する人材も存在していると。さらに、先ほど来申しておりますけれども、リモートワークなど働き方が多様化しているという面もございます。さらにつなぎ手としては、やはり人材ニーズの掘り起こしですとかつなぎ手同士の連携、情報共有が必要であるというふうにございられるところをございます。

次に10ページ目を御覧ください。

やはり今後必要なのは、企業とプロ人材の間に生じているミスマッチを解消することが重要であるということをございまして、これも先ほど参事官からもお話がありましたけれども、まずは副業・兼業によるプロ人材の活用が有効ではないかと。試験的な活用をございますとか、リモートの活用によって常用雇用では確保できないような人材の活用が可能であると。こういったことを通じて北陸地域での常用雇用、定住につながる可能性も出てくるのではないかとございられるところをございます。

最後、11ページ目を御覧ください。

今後、北陸地域において何が必要なのかということをもとにまとめていただいたのですが、つなぎ手としては、まず副業・兼業人材の活用を促すためのメリットの啓発、あるいは、不慣れな企業に対する経営課題の具体化や副業・兼業ニーズの掘り起こし、適した業務の切り出しなどのサポート、あるいは、副業・兼業人材の活用が広まるまでの間、つなぎ手が関わることによる安心感の付与などが求められるのではないかと。

また、これらの取組をプロ拠点や金融機関が個別に取組を進めるだけでなく、地方公共団体や商工団体も含めた地域の各主体がこれまで以上に連携強化を図り、情報・ノウハウを共有して取組を進めていくことが重要ではないかと。関係機関が連携して進める取組として、例えば「好事例の情報発信、北陸地域における機運醸成を目的としたセミナーの開催」、「関係機関の連携強化、情報・ノウハウの共有を目的とした会議体の設置」、あるいは「北陸企業の副業・兼業に関するプロ人材の求人情報、地域の魅力等のPRに関する説明会の都市圏開催」なども考えられるのではないかというふうに我々としては思われるということでございます。

簡単ではございますが、私からの説明は以上でございます。ありがとうございました。

以上